

<適合タイヤサイズ>

24インチ～最大 700 x 45c (ETRTO 47-622)

(タイヤ直径最大 726mm まで)

**ご使用になる前に、この説明書をしっかりとお読みください。****お問い合わせ先**

修理をご依頼の場合は、まず添付の製品保証規定をよくお読みになった上で、まず最初にお買い求めになったショップにご相談ください。

<販売元>**株式会社 フカヤ**〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37
フカヤビル 3F

Phone: (052) 228-8910

Fax: (052) 228-8917

Mail: www.fukaya-nagoya.co.jp**<製造元>****株式会社 箕浦**〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1
www.minoura.jp

Phone: (0584) 27-3131

Fax: (0584) 27-7505

Mail: minoura@minoura.jp (営業)
infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)

注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント車など特殊な自転車、内装変速機付自転車には不適です。
- 後輪ハブ幅への対応はトラックエンドの110mmから165mmまでです。一般的なロードやクロスバイク、MTBのほか、ハブ幅の狭いピストやBMXにもお使いいただけます。
- 24インチから最大700x45c(ETRTO 47-622)までの一般的なロード・クロス・MTB用タイヤにフィットします。小径車や極太のファットバイク、大径の29インチサイズのタイヤはこのモデルでは使用できません。
ただし24インチから26x1.0インチ(ETRTO 25-559)までのサイズのタイヤで使用する場合は、別売のZ型をした小径ホイールアダプタを負荷装置の下に装着して負荷装置をかさ上げしてやる必要があります。
- 使用する自転車のホイールがクイックリリース式である場合は、添付のクイックリリースに取り替えてください。添付のクイックリリース以外ではレバーの形状が異なるため、安定して自転車が装着できません。
クイックリリース式ではない通常のハブナット式のホイールの場合は、添付のクイックリリースは使用せず、右側カブリング(F-1)からグロメット(F-9)を取り外してお使いください。

クイックリリースとは：

工具を使うことなくレバー操作だけでワンタッチでホイールの脱着ができる機構。ハブナット式ホイールをクイック式に変更するにはハブ自体を交換する必要があり、それはホイールの組み直しを意味するため非現実的です。

- トレーナーは水平で平坦な床の上に設置してください。傾いた場所での使用は転倒の恐れがあります。
床の材質によってはゴムキャップにより変色することがあります。またトレーニング中には汗を大量にかくので床やカーペットを汚してしまいます。自転車とトレーナーの下に防水シートや専用マットなどを敷いてください。
- 負荷装置のローラーをタイヤに押し当てる量は説明に従って適切に調整してください。ローラーを強く押し付け過ぎたり、逆に軽く触れる程度でしかない、タイヤは異常磨耗を起こしてしまいます。
タイヤドライブ式トレーナーにおいては構造上タイヤの磨耗は避けられませんが、適切に調節することにより、路上走行並みに寿命をのばすことは可能です。
またローラーの磨耗をできるだけ少なくするため、自転車を装着する前には、タイヤに付着した砂埃などをきれいに拭き取っておいてください。ローラーは消耗品です。磨耗が1.8mmを超えたら交換してください。
- 左側のホイール位置調整ノブはホイールを締め付けるためのものではありません。締め付けはハブハンドルのみです。
- MagRide60-Rには自転車を降りることなく負荷量を7段階に調整することができるリモコンシフターが備えられています。
リモコンケーブルを取り外してしまうと、負荷装置は最大負荷の位置で固定されてしまいます。
錆びによるトラブルを防止するため、リモコンシフターやケーブルには汗などを付着させないでください。
- トレーナーの使用中は、回転しているホイールやローラーなどには絶対に触れないでください。また小さな子供やペット、倒れやすいものなどを使用中のトレーナーに近づけないでください。
- もし使用中に異常なおい・振動・異音などを感じた場合は、すみやかに使用を中止し、お買い求めになったショップにご相談ください。
- 自転車のトレーニング以外の目的には使用しないでください。またこのトレーナーにおける運用速度は最大限45km/hまでとし、それ以上の速度での使用はユーザ自身のリスクとします。
- 弊社はこのトレーナーを最初に新品で購入したユーザに限り、ご購入後1年間の品質保証期間を、負荷装置およびフレームに設けています。弊社の設計・製造上の不具合点に起因するトラブルに関しては、この期間中は無償で対応します。ただしユーザによる誤った使い方や破損、弊社の許可を得ないままの改造や分解、最初から想定されている自然磨耗や消耗、および輸送中の取り扱いによる破損・汚損などについては、弊社はその責を負いません。
またいかなる理由があろうとも、いっさいの中古品や並行輸入品に関しては日本国内での保証の対象外とします。
詳しくは添付の「製品保証規定」カードおよび弊社ウェブサイト(www.minoura.jp)をご参照ください。

MagRide60-R のセットアップのしかた

必要な工具： 1 x 10mm スパナ
1 x M4 六角レンチ

(いずれも添付しておりません。ご自身でご用意ください)

1. まず最初に、お使いになる自転車の後輪のクイックリリースを商品に添付のものに取り替えます。このクイックリリースを使用している場合に限り、弊社はその安定性に関して責任を持ちます。



もしお使いの自転車がクイックリリース式ではなく一般のハブナット式であった場合には、右側カップリングの先端からグロメット（クイックのナットを傷から保護する黒い樹脂部品）を取り外しておいてください。グロメットを取り外さないままハブナット式のホイールを取り付けると、荷重をかけた際に外れてホイールごと脱落してしまう恐れがあります。



このトレーナーに添付のクイックリリースを装着したまま路上を走行することはまったく問題ありません。安心してお使いいただけます。

2. 負荷装置はあらかじめ本体フレームに取り付けられています。M6x50 ボルトの締め付け具合が適切になるよう、M4 六角レンチと 10 ミリスパナで調節します。

強く締め付け過ぎると負荷装置は動かなくなります。
逆に緩すぎると、負荷装置が早く動きすぎて指などを挟む恐れがあります。
持ち上げて離れた負荷装置が 0.5 秒ほどかけてゆっくりと降りてくるくらいが適切です。

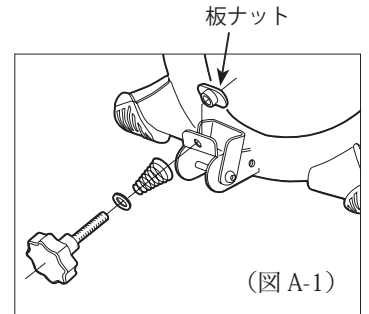
3. 続いて板ナットをを本体金具の孔の裏側にはめ込み（図 A-1）、そこに表側から加圧調整ノブボルトをねじ込みます。（図 A-2）



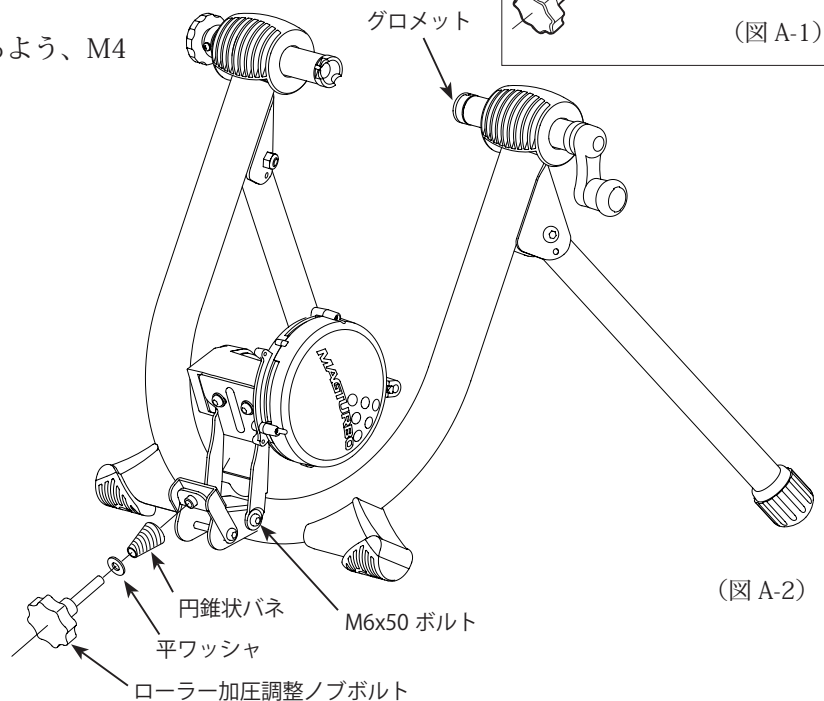
円錐状バネの向きは図 A-2 の通りにしてください。誤った向きだとノブボルトをスムーズに回せなくなります。

4. 脚を両方ともいっぱい開き、水平で平坦な床の上に置いてください。このとき、脚先などの先端 4ヶ所がすべて同時に床に接地していることを確認してください。（図 B）

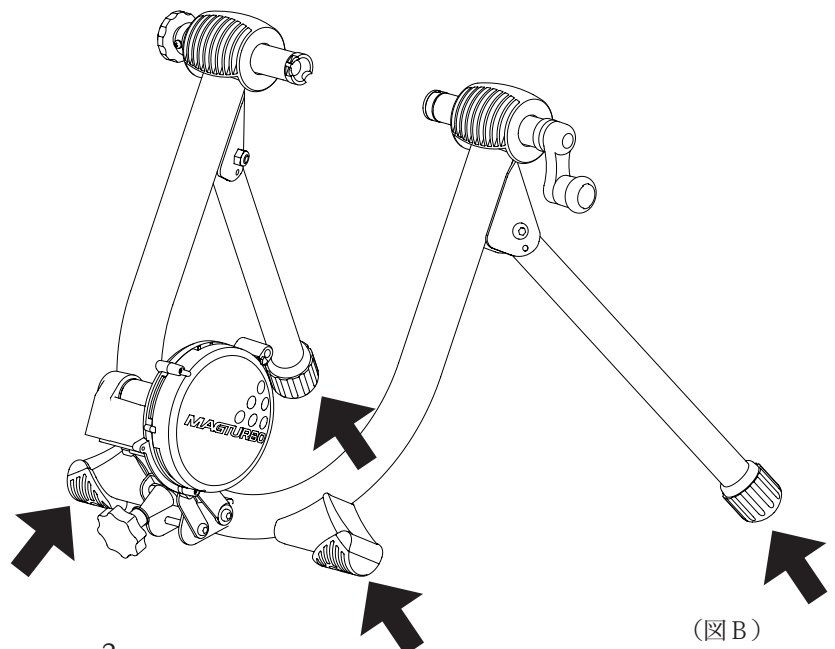
もし片側の脚が少し浮いてしまっている場合は、低くなっている方の脚をつかんで強く上に引っ張りあげると、ずれが直って 4 点接地するようになります。



(図 A-1)



(図 A-2)



(図 B)

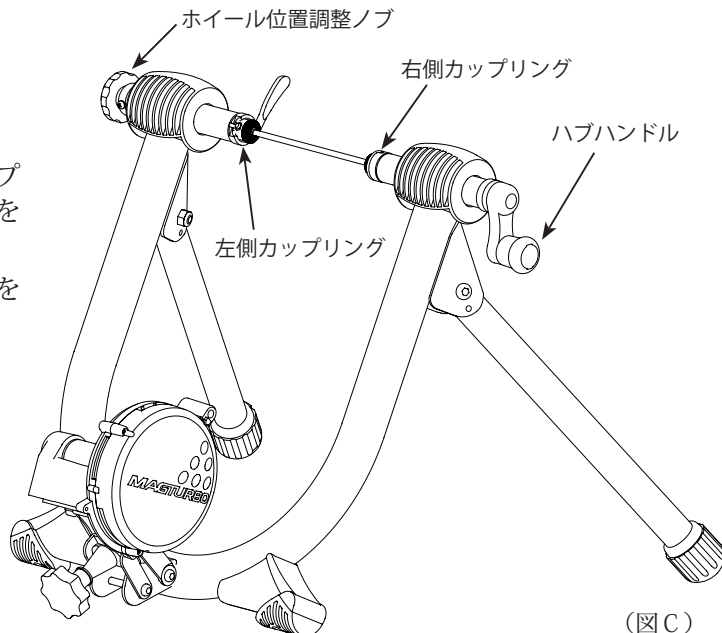
5. 自転車の後輪を左右のカップリングの間に置きます。

(右図ではわかりやすいようにホイールは表示せず、クイックリリースのみを表示しています)

- 1) まずハブハンドルを左回りに回し、右側カップリングを引きこんでカップリング同士の間隔を広くあけておきます。(図C)
ハブ幅によっては、左側カップリングもノブを回して引き込んでおく必要があります。



ハブハンドルをほぼいっぱいに緩める場合は、限度を超えてまでは回さないでください。
無理に回してしまうとその力で内部のナットを緩めてしまい、ハンドルが空回りする故障の原因となります。



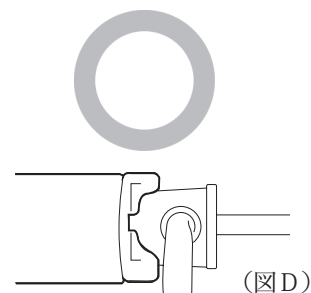
(図C)

- 2) まず先に、クイックリリースの左側（レバー側）を左側カップリングの中に挿入します。このときカップリングの縁に設けられている大小の切り欠きのうち、大きい方がレバーの根元に来るようにカップリングを指で回して調整してください。(図D)
もしレバーの根本シャフト部がカップリングの縁に乗り上がってしまっているとしっかりと保持されなくなり、最悪の場合、荷重がかかったときに自転車ごと外れて落車してしまう恐れがあります。
- 3) この状態を保ったまま静かに自転車を下ろしていき、クイックリリースの右側（ナット側）が右側カップリングと同じ高さになったところでいったん止めて保持します。
- 4) その位置でハブハンドルを右回りに回して、右側カップリングでハブ軸を挟み込んでいきます。変速ケーブルなどはカップリングの上を通すなどして、一緒に挟んでしまわないようにしてください。ハブ軸ががっちりとは挟み込まれ、ハブハンドルを回す力に抵抗がかかり始めフレームが軽く広がるのがわかったら、そこでいったんハブハンドルを回すのを止めます。
ハブハンドルをいっぱいには回しているのにまだ締め切れずにホイールのがたつきがある場合は、左側カップリングの位置が遠すぎます。左側ノブを右に回してもっと中央に寄せてください。
- 5) ハブハンドルをもうあと2回転だけ回して終了します。それ以上締め込んでもトレーナーのフレームや自転車に余計なストレスを与えるだけなのでやめてください。



左右のカップリングはトレーナーに添付のクイックリリースにのみぴったりと合うように作られています。特に左側（レバー側）は図Dのようにレバーが切り欠き部により逃げていなければなりません。

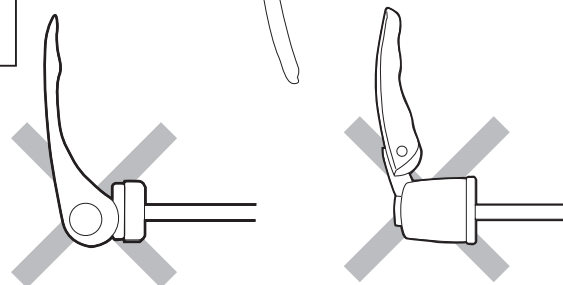
一部の市販のクイックリリースはそのままこのトレーナーでも使用できますが、シャフトの延長上にレバーがあるタイプ(図E)や、いっぱいにはレバーを倒しても直角を超えてこないタイプ(図F)ではしっかりと保持できなくなるため使用できません。



(図D)



カップリングは、クイックの端をすっぽりと収めるようにはなっていません。頭部の一部だけが収まるだけです。
それでも十分な保持力を発揮しますので、掛かりが浅いからといって不良だと判断しないでください。



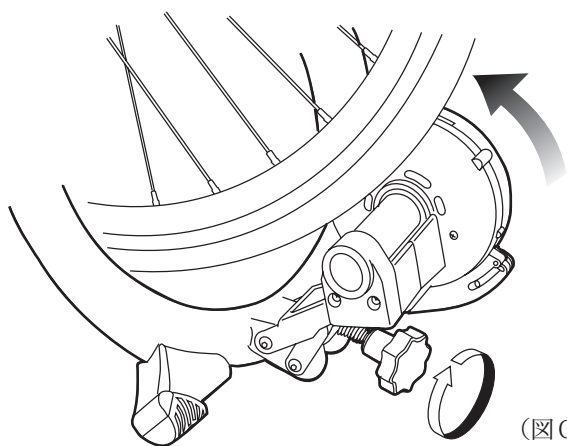
(図E)

(図F)

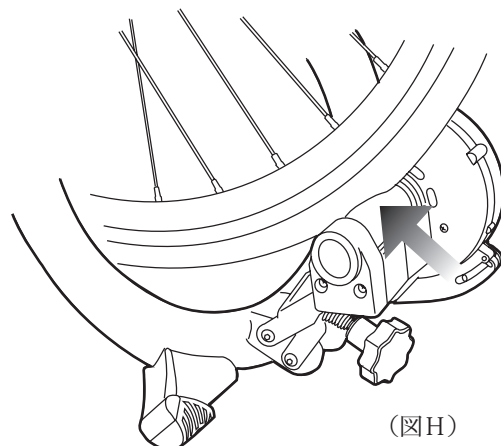
6. ローラー加圧調整ノブを右回りに回して負荷装置のドライブローラーをタイヤに当て、そこからさらに締め込んでいきます(図G)。最適な状態は、側方から見てローラーがタイヤを3~4mm程度の深さで凹ませている状態です(図H)。もしノブを回しづらい場合は、片手で負荷装置を持ち上げて浮かせてやると軽く回すことができます。



ローラーの押し付け量は適切に調整してください。
押し当てが強すぎると、タイヤが加熱しバーストする恐れがあります。
逆に弱すぎると、タイヤ表面を消しゴムのように早く磨耗させていってしまいます。



(図G)

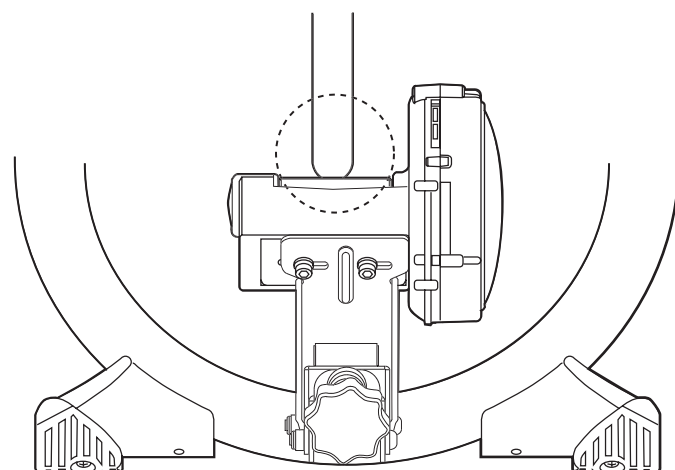


(図H)

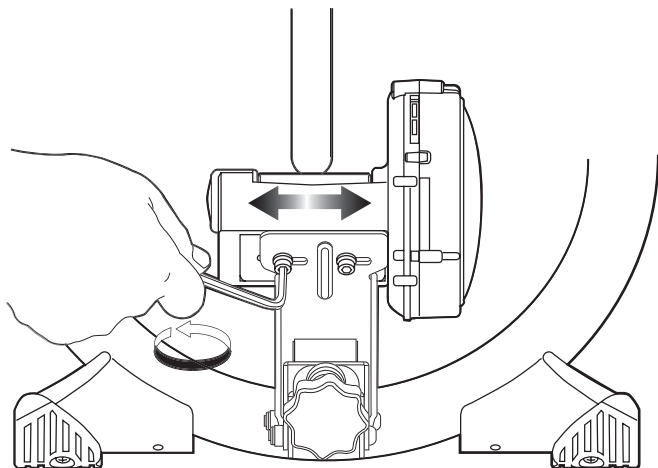
7. 後輪タイヤはドライブローラーのほぼ中央部にあり、負荷装置の他のどの部分にも触れていない状態でなければなりません。(図I)

もしホイールが歪んでいたり、装着しているタイヤが太すぎるなどの理由でタイヤが負荷装置の樹脂部分に接触してしまっている場合(図K)は、負荷装置裏側の2本のボルトをM5六角レンチで緩めることで負荷装置全体を左右にずらして補正することができます(図J)。調整し終えたあとは再びボルトをしっかりと締め込んでおいてください。

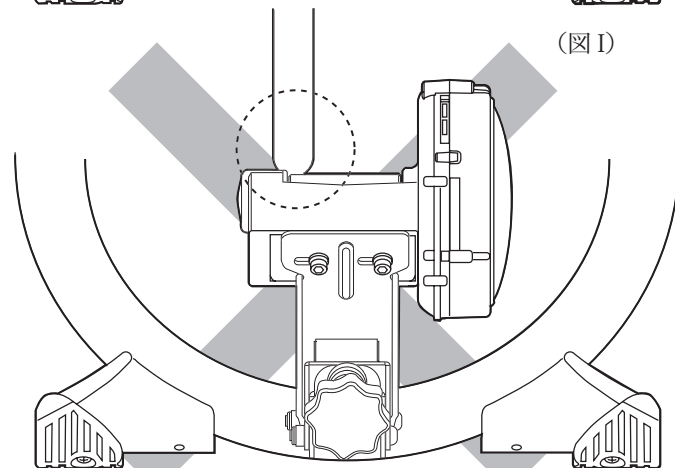
あるいは、左側のホイール位置調整ノブを使って、ホイール全体の位置を左右に移動させます(手順8)。



(図I)



(図J)



(図K)



もしタイヤがドライブローラー以外の部分に触れたまま使用していると、その部分が破損したりタイヤが異常磨耗を起こす恐れがあります。これらは保証の対象外です。

8. ホイール位置の左右調整は、まずホイールを取り付けていない状態で、左側ノブを回して左側カップリングの位置をあらかじめ動かしておきます。あとは通常の方法でホイールを装着し、タイヤがローラーのセンターに来ていることを確認してください。まだずれてしまっている場合は、いったんホイールを取り外して調整し直すか、あるいは左右のノブとハンドルを両手で同時に回して移動させます。

リモコンシフターについて

必要な工具： M4 六角レンチ 1本
(ご自身でご用意ください)

MagRide60-Rには便利なリモコンシフターが装備されています。
このシフターをハンドルバーなどに装着することで、いちいち自転車を降りることなく負荷を7段階に調節することができます。
負荷は自転車側のギア操作でも微調整することはできますので、補助的に利用してください。



膝へのダメージをできるだけ少なくするため、トレーニングの初めのうちは負荷は軽いまま使用し、あたたまってから次第に負荷を重くするようにして行ってください。

リモコンシフターの取り付け方：

- 1) 樹脂製のバンドをハンドルバーに巻きつける。
- 2) バンド先端のリング部をシフター基部のフック部に掛ける。(図L①)
- 3) パチンとレバーを閉じて締め付ける。(図L②、図M)

バンド調整について：

リモコンシフターのバンドはあらかじめ一般的な直径22mmのハンドルバーサイズにおよそ合わせてありますが、もしそれがきつかったり緩かったり、あるいは径の異なるオーバーサイズのハンドルバーやステムなどに取り付ける場合は、M4六角レンチで調整ネジを回し、バンドの長さを調整してください。(図N)



バンドや調整ネジは樹脂でできていますので、無理に回すとネジ山が壊れてしまいます。
バンドを調整するには、あらかじめフックからバンドを外しておいてから行ってください。

負荷調整のしかた：

負荷は7段階に強弱を調整することができます。

負荷を上げるには

レバーをH方向に回す。

負荷を下げるには

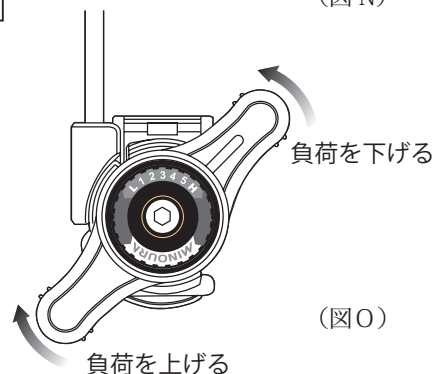
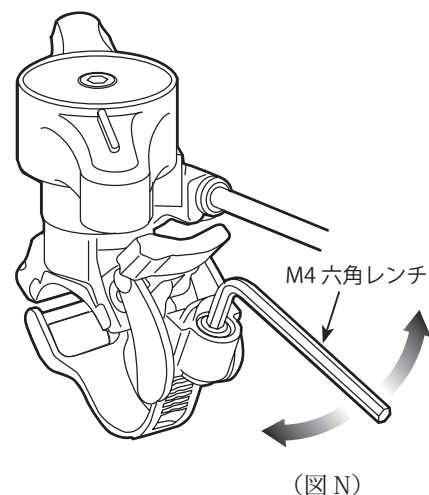
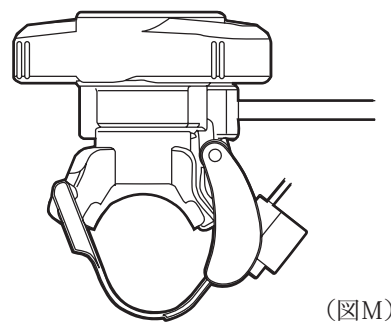
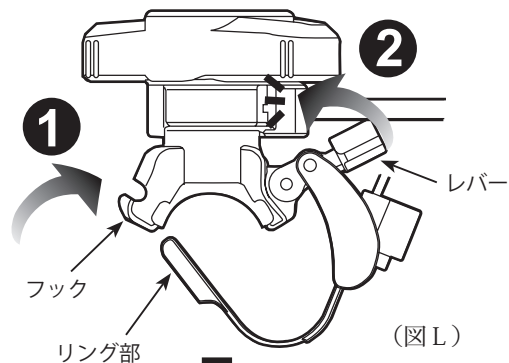
レバーをL方向に回す。



Lでも負荷がゼロというわけではありません。
ローラーがタイヤを押し付けている分だけの抵抗は少なくとも発生しています。



トレーニングは我流で行わず、必ず十分な知識を持ったコーチに就いて行ってください。

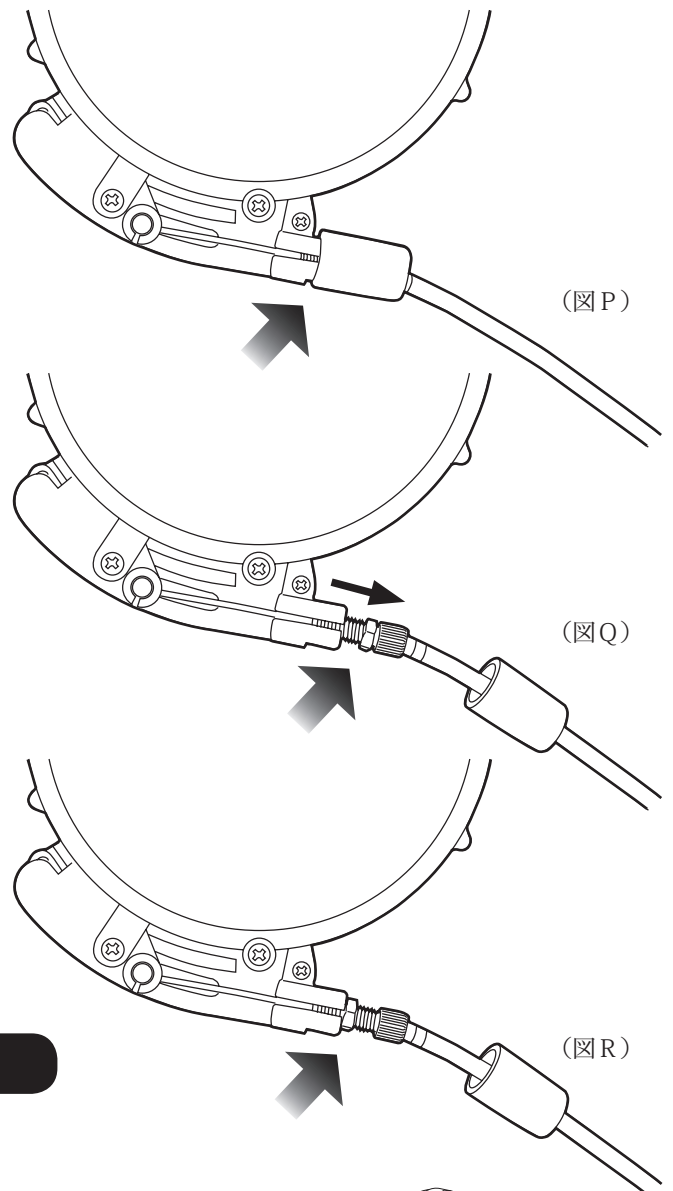


リモコンがうまく動かないときは

しばらく使用しているうちに、レバーをLやHにセットしても正しく指定したレンジにならないことがあります。これはインナーケーブルが伸びてきたためです。

以下の方法でケーブルの遊びを調節してください。

1. リモコンシフターをハンドルバーから取り外し、シフターレバーをHにセットして、ケーブルをできるだけまっすぐ伸ばして床の上に置きます。
2. リモコンケーブルの根元にかぶせてある黒い樹脂キャップを引き抜きます。(図P)
3. 中から現れた調整ネジをアウターケーブル側に押し付けます(調整ネジと負荷装置との間に隙間を作ります)(図Q)。この状態で調整ネジのロックナットを、負荷装置の樹脂ケースに触れるまで回します。(図R)
4. 調整が済んだらリモコンシフターを操作して、LからHまでのポジションにちゃんとセットできるかどうか、Hにしたときにケーブルが弛んでしまわないかどうかをチェックします。
最後に樹脂キャップをかぶせます。



小径ホイールアダプタ (別売) の使い方

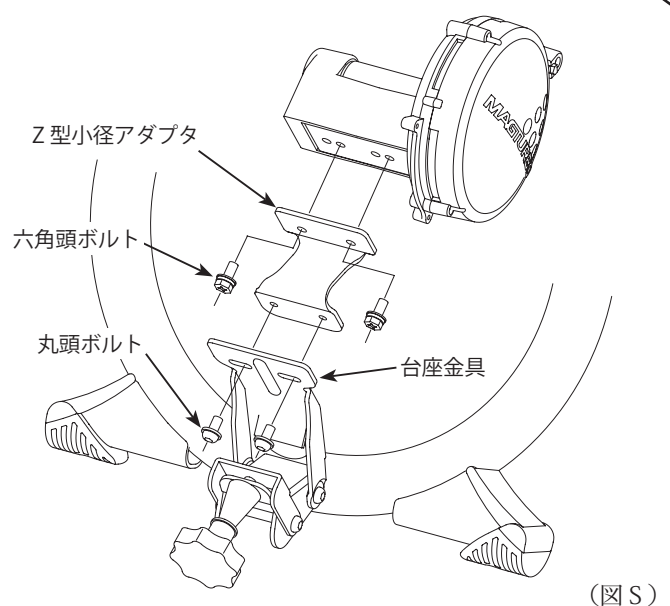
もしこのトレーナーを 26 x 1.0 インチ (ETRTO 25-559) サイズ以下のタイヤで使用する場合は、別売のZ型小径アダプタを負荷装置と台座金具との間に装着し、負荷装置のローラーの高さを上げてやらねばなりません。このトレーナーで使用できる最小タイヤサイズは 24 インチです。

Z型アダプタの方向は決められています。矢印の印刷部を上側にし、矢印を自転車の進行方向に向けて装着してください。(図S)

もしZ型アダプタを使用してもローラーがタイヤに届かないという場合は、Z型アダプタが正しい向きになっていない恐れがあります。逆向きだと届きません。

もともと負荷装置を固定するのに使われていた丸頭ボルトは、台座金具にZ型アダプタを取り付けるのに使用してください。六角頭ボルトはZ型アダプタに負荷装置を取り付けるのに使用します。

防振ゴム板は負荷装置裏面に密着させたままにします。



必要な工具： 1 x 10mm スパナ
1 x M5 六角レンチ
(ご自身でご用意ください)